

IDDNewsletter.....4

April
2024



特集1

「学びのシステム」の根拠

～ SCP における外部依頼制作と特別支援教育における職業教育の在り方についての一考察を添えて～

ろう教育の世界における「デザイン」という鉤括弧付きの要素は、印刷に係る職業技術の別称として狭義に捉えられてきたことは否めません。特別支援学校という枠組みにおいては、最終的には、「手に職を付ける」ことが唯一無二の存在理由となりがちだからです。今回は、その問題の本質と今後の運営の方向性等について考えてみようと思います。

特集2

道庁&道議会食堂訪問

～情報デザイン科の授業風景：年度末の校外学習の一コマ～

令和6年3月19日、専攻科情報デザイン科で行っているスタートアップカンパニープロジェクト（SCP）で教材提供を受けた「道議会食堂学校 給食コラボメニュー」のポスター等の制作に係り、そのポスターの題材となった学校給食コラボメニューを実食するため、道議会食堂への校外学習を行いました。特集2では、そのときの様子について御紹介いたします。

「学びのシステム」の根拠

～ SCP における外部依頼制作と特別支援教育における職業教育の在り方についての一考察を添えて～

ろう教育の世界における「デザイン」という鉤括弧付きの要素は、印刷に係る職業技術の別称として狭義に捉えられてきたことは否めません。特別支援学校という枠組みにおいては、最終的には、「手に職を付ける」ことが唯一無二の存在理由となりがちだからです。今回は、その問題の本質と今後の運営の方向性等について考えてみようと思います。

学校の外部からのグラフィックデザイン及び DTP データの作成依頼を教材として授業内でとりあげる「スタートアップカンパニープロジェクト (SCP)」がスタートして、はや 10 年が経過しようとしています。

先日、その一区切りを迎えた SCP について、北海道新聞社の取材を受けました。

取材を受けつつ、10 年前に本プロジェクトがスタートしたときにことを思い返すと、それなりに感慨深いものもあるわけですが、そのきっかけは決して夢と希望に満ちたものではありませんでした。

詳細な記述は避けますが、要は、他校（高等学校・特別支援学校高等部含め）専攻科に比較し、歯科技工科が廃科となった情報デザイン科単独設置の現状が、社会貢献を果たしているのかどうかについての社会の疑いの目が出発点であり、平たく言えば、「なんの役に立っているのか?」「どのような目的な学習活動が担保されているのか」という声への対応ともいえます。

確かに、特別支援学校の職業教育の枠組みにおいては、校外からの直接的な制作依頼を受け、それを総合的・横断的な活動として授業内容に組み込むことは、これまでも多く取り入れられてきました。「障がいの改善・克服」を至上命題とするこの枠組みにおいて、社会からの承認を受ける、教科の構成要素を有機的に統合する授業形態（いわゆる「合わせた授業」）のカリキュラムが専らの学校がほとんどの中、確かに、それは「都合のよい活動」になります。

しかし、難しさは、系統性の維持にあります。確かに外部依頼による制作は、社会との直接的なつながりを作ります。加えて、特別支援教育という枠組みにおいて、学校側からの

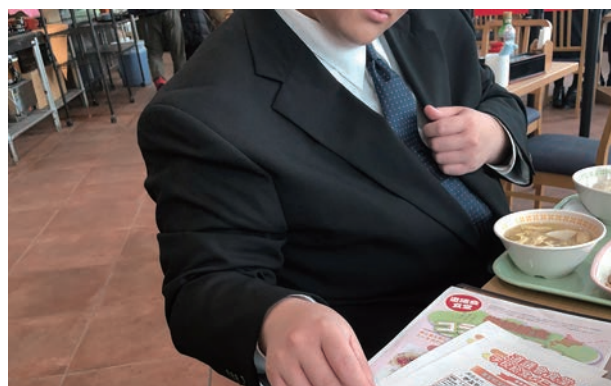
社会貢献、そして、社会の側からは CSR という面で、確かに、かなり目立つ活動です。

しかし、学校は、最終的にひとつのカリキュラムを修めたとき、その後自身が組み込まれることになる社会システムにおいて必要となる構成要素が身についたかどうかで有効性が判断されるべきと考えます。その前提を満たすためには、ある程度の系統性が求められることになるわけですが、得てして、有機的で実際の活動を組み込む際には、その構造を多少壊してでも取り組まなければ成立し得ない場面に多く遭遇することになります。

実社会の業務には、納期の厳守と品質の担保が求められます。しかし、学校のカリキュラムは有限です。ある限られた時間の範囲において、もっとも効率よく必要な要素を身に付けられるかどうかにか成否がかかることとなりますが、その本来の目的を遂行しようとするとき、前述の二つの実社会におけるもっとも重要な要素を維持しづらくなることがあることも事実です。

確かに、専攻科情報デザイン科で扱っている内容は、直接的な職業技術の取得に特化した学習とは言い難いカリキュラムかもしれません。しかし、デザイン領域というのは、そもそもが複合領域であり、設計や思想自体を表す概念です。で、これさえ身に付けておきさえすれば、職業自立が可能になる、というほど単純なものではありません。

それでも全国の聾学校に「デザイン」という文字が含まれる学科名を看板に掲げる専攻科は、それなりに数多くあります。それは、おそらく、もともとが印刷系の職種での就職を前提とした教育課程が組まれていた名残であると思われます。以前は、印刷会社の組版等では、ろう者が多く活躍して



いました。聴者よりも、活字を拾う、また、写植文字を打つ作業が圧倒的に早かったからです。しかし、それがDTP に変わり、その DTP でさえも紙の出力を前提としない社会になり、ろう者の作業効率における優位性は、視覚的な要素のみで展開できるという特性は未だ残されてはいるものの、相対的に高いものではなくなりました。そのような業態の変化に伴い、各ろう学校の職業化における印刷系の学科も、看板を「デザイン」に付け替えるところが目立つようになってきました。

しかし、その「デザイン」という鉤括弧付きの要素は、ろう教育の世界においては、印刷に係る職業技術の別称として狭義に捉えられてきたことは否めません。やはり、特別支援学校という枠組みにおいては、最終的には、「手に職を付ける」ことが唯一無二の存在理由となりがちだからです。

ろう教育における職業教育で重要なのは、むしろ「手に付

けた職業技術そのもの」というよりは、その技術の体系や法則性のシステムを理解し、応用範囲を広げていくことにあるのではないかと考えます。つまり、主体的に思考し、判断し、表現していくこと、還言すれば、本質的な意味でのデザイン活動そのものにあるのではないかと考えます。

そう考えたとき、私達は、一つ一つの題材をどう片付けるか、どう仕上げるかといった狭義のデザインではなく、設計すること自体、考えること自体、といった活動に目を向けていと考えています。そのことについて系統だった学びのシステムを準備し、深い理解や幅広い見識を伴った価値ある学びのフレームを準備することが、実は、社会参加という至上命題への最大の近道なのではないかと考えています。

IDDN



特集2

道庁&道議会食堂訪問

～情報デザイン科の授業風景：年度末の校外学習の一コマ～

令和 6 年 3 月 19 日、専攻科情報デザイン科で行っているスタートアップカンパニープロジェクト（SCP）で教材提供を受けた「道議会食堂 学校給食コラボメニュー」のポスター等の制作に係り、そのポスターの題材となった学校給食コラボメニューを実食するため、道議会食堂への校外学習を行いました。特集 2 では、そのときの様子について御紹介いたします。

令和 6 年 3 月 19 日、専攻科情報デザイン科で行っているスタートアップカンパニープロジェクト（SCP）で教材提供を受けた「道議会食堂 学校給食コラボメニュー」のポスター等の制作に係り、そのポスターの題材となった学校給食コラボメニューを実食するために、道議会食堂への校外学習を行いました。

この校外学習では、制作依頼を受けた教育委員会の関係部署の皆様からの御挨拶や懇談等も行われ、さらに、教育長との懇談も御準備いただきました。普段は、なかなかできない体験に、学生も緊張気味でしたが、内容が深まるにつれ、話は大いに盛り上がり、日常では得難い貴重な体験ができました。

また、道議会食堂での実食では、ポスター等の制作を行った素材と同じメニューが登場し、学生一人一人が自分たちの制作したものへの思いを馳せつつ、練りに練られた献立に舌鼓を打ちました。

入口には、本プロジェクトで制作したポスター類がきれいにフレームに入った状態で並べられ、改めて情報デザイン科の学習と実社会の活動とのつながりを実感することができました。

御協力いただいた関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

IDDN



Contents

特集1

2 「学びのシステム」の根拠

～SCPにおける外部依頼制作と特別支援教育における職業教育の在り方についての一考察を添えて～

ろう教育の世界における「デザイン」という鉤括弧付きの要素は、印刷に係る職業技術の別称として狭義に捉えられてきたことは否めません。特別支援学校という枠組みにおいては、最終的には、「手に職を付ける」ことが唯一無二の存在理由となりがちからです。今回は、その問題の本質と今後の運営の方向性等について考えてみようと思います。

特集2

3 道庁&道議会食堂訪問

～情報デザイン科の授業風景：年度末の校外学習の一コマ～

令和6年3月19日、専攻科情報デザイン科で行っているスタートアップカンパニープロジェクト（SCP）で教材提供を受けた「道議会食堂 学校給食コラボメニュー」のポスター等の制作に係り、そのポスターの題材となった学校給食コラボメニューを実食するため、道議会食堂への校外学習を行いました。特集2では、そのときの様子について御紹介いたします。

Welcome to Information Design Department !!

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科学科だよりをお読みいただきまして、ありがとうございます。

今年度もいよいよスタートします。皆様、どうぞよろしく願いいたします。

本校情報デザイン科では、全国から学生を募集しております。

寄宿舎があり、道内外に関わらず入舎可能です。土日祝日も開舎しておりますので、遠方からの入舎も安心です。ご興味のある方は、ぜひ、御連絡をいただければと存じます。

詳しくは、本校 web サイトにて情報デザイン科のページを御覧ください。

情報デザイン科学科だより

Information Design Department

IDDNewsletter

April 2024 4

IDDNewsletter April 2024

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。



専攻科情報デザイン科の特徴

- ・高等学校に設置される「専攻科」と同様の枠組みです。（いわゆる「準ずる教育」の教育課程です）
- ・授業料が全くかからず、材料費等も非常に低コスト（注1）で、対費用効果の高い学びができます。また、通学等に関わる費用は「就学奨励費」の対象（注2）となっており、支援制度等も充実しています。
- ・DTP や Web に係わる「最新の」「スタンダード」な内容を重視します。（例えば、Web であれば、HTML5 と CSS3 を使い、セマンティックなコーディング、というように。もちろんテーブルレイアウトや center タグは使いません！）
- ・デザイン等に専門的な学習だけではなく、特別支援学校における「自立活動」（注3）で扱うべき内容、例えば日本語教育や聴者社会の社会生活に係わる内容等を、総合的に、到達度がはっきり理解できるように学びます。
- ・学生のこれまでの学びの環境や積み重ね（「普通校」出身者か「聾学校」出身者か、失聴時期、日本語のリテラシー、学力等）に合わせた教育方法を準備します。
- ・筑波技術大学と協調した授業等も行っています。
- ・修了後について、本人、保護者の希望をお聞きすると同時に、ロールモデルとなる聴覚障がい教職員のアドバイスを受たり、聴者社会とろう者社会、ろう者と難聴者との違い（注4）などについて客観的に学びながら、単に「好きなこと」から「（社会にとって、自分にとって）やる価値のあること」「自分の技量でできること」「社会に貢献できること」といった観点から主体的に進路選択できるようにしていきます。

注1：現在、学校で材料費等は徴収していません。授業毎に使用する材料等は、すべて学生自身で準備し、学校に持参していただきます。

注2：特別支援学校に在籍する生徒・学生への補助制度で、帰省や通学にかかる交通費、給食費等が対象となり、所得状況に応じて額は変わります。

注3：普通校には通常ない領域で、障がいそのものの改善に焦点を当てます。具体的には、弊校の場合、聞こえや社会生活、コミュニケーションに係る内容となり、学校の教育活動全般をとおして指導が行われます。

注4：医療や教育分野では聴力を基準に考えることが多いですが、聴覚障がい者の実際の社会での有り様においては、日本手話を母語とする「ろう者」と聞こえづらけれども日本語を母語とする「難聴者・中途失聴者」で分かれます。

電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp

電話：0134-62-2624

ファックス：0134-62-2663

※入試前まで教育相談等に対応できます。

一人一人に合った指導方法を準備するために、できるだけ入試前に教育相談にお越しになることをおすすめいたします。